



1. それぞれの春
2. 3.8m 望遠鏡の進捗報告 —熱闘の記憶—
3. プロ小通信（第三回）
4. ハワイ観測所岡山分室の立ち上げ準備について
5. 岡山天体物理観測所共同利用完遂記念イベントの挙行

1. それぞれの春

鈍った鼻にもはっきりと分かる強烈なヒサカキの匂いが立ち込めています。冬が寒かったせいなのか、観測所の桜も例年より早くつぼみが赤くふくらみ始めました。この春、観測所員はそれぞれ、次なる目的地へと向かって旅立ち始めました。岡山天体物理観測所もこれまでの衣を脱ぎ捨てて新時代を迎えるため、しっかりと準備を進めてきています。その様子をご紹介しますながらOAOニュースレターをひとまず終えることにいたします。長きにわたるご支援とご協力、どうもありがとうございました。

（泉浦秀行）

2. 3.8m 望遠鏡の進捗報告 —熱闘の記憶—

2017年7月中旬、甲子園を目指して炎天下の中、熱戦が繰り広げられるころ、私たちも猛暑と闘いながら望遠鏡の移設作業を行いました。先回の報告では、いくつかの部品をドーム内に運び込むところまででしたが、今回は望遠鏡の部品の中でもっとも大きな方位ベースやターンテーブルなどをドーム内で組み立てます。4m強のスリットからすべてのパーツをクレーンで吊り入れて、完成時には8m立方になる望遠鏡を組み立てるわけですから、まさにボトルシッップの様相です（図1）。

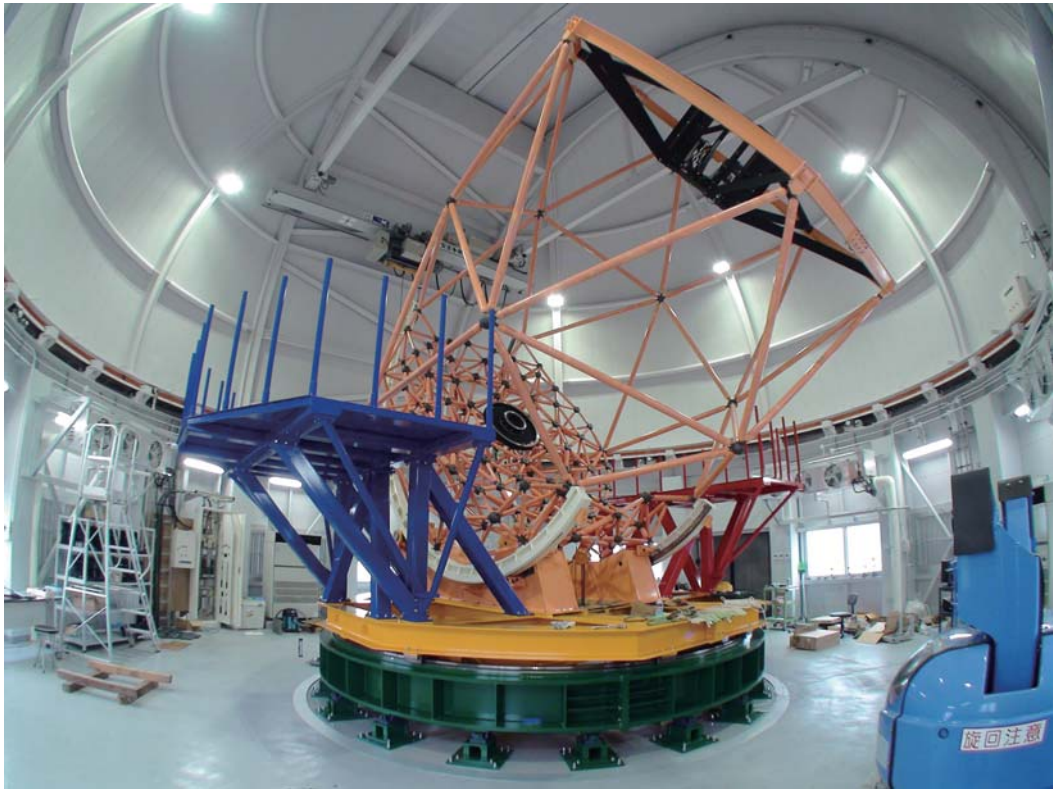
仮ドームの中で1年以上過ごした望遠鏡はあちらこちらが錆びだらけですので、錆取り作業にてこずりました。方位ベースも仮ドームの中で組み立てたときに比べて形状が少し歪んだようで、回転レール

の計測と調整を繰り返しました。

機械構造の移設と組み立てを終えたのが7月26日ころで、その3日後に地元浅口のおかやま山陽高校が熱戦を勝ち抜き、晴れて岡山県代表となりました。

引き続き、春に向けて望遠鏡と分割鏡の制御試験を行い、夏から開始される共同利用に備えていきたいと思います。

（栗田光樹夫）



(図1) 本ドーム内で組み上げられ、青・赤・オレンジに色付けされた 3.8m 望遠鏡本体。

3. プロ小通信（第三回）

このコーナーでは、岡山観測所プログラム小委員会（プロ小）の活動をお知らせしています。今回は、2017年11月から2018年3月の活動をお知らせします。

- ◆ 2017年11月21日（第8回委員会）
- 2017年12月19日（第9回委員会）
- 2018年1月16日（第10回委員会）
- 2018年1月19日（第11回委員会）

前回に引き続き、3.8m 望遠鏡での共同利用の制度設計について議論を行いました。大きな方針としては、定常運用期にはキュー観測を主たる観測モードとし、立ち上げ期からそのための準備をしていくことが確認されました。第11回委員会の後、この方

針に基づいて光赤外専門委員会に中間答申を行いました。

- ◆ 2018年2月15日（第12回委員会）
1月に提出した中間答申に対する光赤外専門委員会からのコメント、意見を踏まえ、さらに議論を深めました。

- ◆ 2018年3月15日
春季年会2日目のお昼休みに「京大岡山 3.8m 望遠鏡の共同利用に関する意見交換会」を開催しました（参加者約40名）。キュー観測、ToOを重視するという方針をユーザーと共有し、立ち上げ期の形態についても議論を行いました。

◆ 2018年3月27日（第13回委員会）
3.8m望遠鏡の開発・運用担当者から立ち上げの進捗状況について説明を受け、初回公募の内容を議論しました。また、光赤外専門委員会への最終答申をまとめました。

今年度のプロ小の活動はこれで終了です。4月からは、8月に予定されている共同利用観測開始に向けて急ピッチで準備を進めていきます。

（佐藤文衛）

4. ハワイ観測所岡山分室の立ち上げ準備について

京大岡山3.8m望遠鏡を利用した全国大学共同利用を実施するための国立天文台の組織として、2018年4月1日にハワイ観測所岡山分室が発足します。京都大学と交わす覚書の策定が最終段階に入った昨年夏頃から分室の管理体制、事務体制、および利用する施設などを具体的に検討し始め、現在一通りの準備が整っています。

まず、組織については、同じ可視域および赤外線を観測する望遠鏡であるということもあって、岡山分室はハワイ観測所（すばる望遠鏡）の下部組織となることになりました。しかし、これら2つの組織はほぼ独立に異なる望遠鏡の共同利用を推進することに加えて、距離（時差）的問題や予算規模の違いなどから、岡山分室には分室長を置き、実質的にはその下で分室の管理運営が行われることになっています。また、事務的（予算等）にも、来年度はハワイ観測所とは別に扱うこととし、1年ほどかけてより適切な形を模索することとしています。なお、分室運営に従事する職員としては、京都大学との覚書で約束した教職員3名に加え、事務職員2名（平成30年度は3名）、構内整備に当たる職員1名を予

定しています。

次に、分室が運営する施設については、予算が限られていることもあって必要最小限とすることとし、基本的には現岡山天体物理観測所の本館・別館（+車庫+実験工場）のみとしました。その準備のために昨年末に特別経費を獲得し、本館内の図書室の撤廃および計算機サーバー室の新設、電気実験室の本館への移動（プレハブの撤去）、写真乾板の三鷹への移動（および乾板倉庫の撤去）、本館の給湯室および女子便所の更新、門衛所の撤去、自動ゲートの導入（主に機械警備となるため）、今後利用しない物品の廃棄などを進めました。

その他、宿舍や食堂については、少なくとも1年間は運営される予定です。また、既存望遠鏡群を運営する組織のために、光ファイバーの敷設やネットワークの分離なども実施してきました。今年8月にはいよいよ共同利用が始まることとなりますが、より親しまれる分室になっていくよう、ご意見をお寄せいただければ幸いです。

（神戸栄治）

5. 岡山天体物理観測所共同利用完遂記念イベントの挙行

2017年12月をもって岡山天体物理観測所による188cm望遠鏡の共同利用の全日程が終了し、1962年の観測開始以来約56年に渡って脈々と続けられてきた観測所の共同利用サポート業務がここに完了しました。これを記念して、12月28日に188cm望遠鏡ドーム内にて現職員でささやかな式典を執り行いました。

式典ではまず、泉浦所長から長年続けられてきた共同利用業務を無事に完遂出来たことへの祝辞と所員に対するねぎらいの言葉があり、その後所長によりくす玉割りが執り行われました。また、所長のたっでの希望で、普段は（暗黙的に）飲酒厳禁の望遠鏡室内で、シャンパンによる乾杯が行われました。ここだけの話ですが、職員が手に持っているグラスの中身は、高級

シャンパンの代名詞でもあるあのドンオリです。今回、所長のポケットマネーや職員組合の援助もあり、最後は華やかにということで、なんともバブルな乾杯が実現しました。普段はなかなか飲めないお酒を手に、職員の会話も弾みました。

真冬の寒さが身にしみるドーム内でしたが、多少のアルコール（飲めない人は唐辛子入りジンジャーエール）も入り、職員一同あたたかな気持ちで、お互いと、それから1番の功労者である望遠鏡の労をねぎらっていました。

（福井暁彦）



（図2）共同利用完遂記念イベントでの乾杯の様子。